

平成23年度の成果

プログラムの目的のため、3科目を行い、1科目を休講とした。

(1) 国際研究集会企画演習

大学院生が中心となり小規模の国際研究集会を企画・立案・実行した。

1. International Workshop on “Recent Developments in Hadron Physics”

(平成24年2月3日) 20名参加

注) 前期は東日本大震災に伴う節電への影響を考慮し、休講とした。

(2) 国際研究実地演習

大学院生を外国の主要な研究機関の現場等へ派遣し、国際的な環境の中で研究を発展させる。あるいは外国での学会に参加し研究発表するのを支援する。

派遣は10名(延数)で、派遣先内訳(延数)、アメリカ4名、フランス3名、スイス2名、台湾1名、である。

(3) 研究企画演習

今年度は休講とした。

(4) 英語理学講義

外国人講師4名を招聘し、以下のタイトルで英語による講義を行った。

1. Basic ideas of covariant density-functional theory and its application in Nuclear structure and astrophysics (Jie Meng氏、北京大学)
2. Giant resonances: Compression modes and spin-isospin modes (Muhsin N. Harakeh氏、University of Groningen)
3. The Restless Universe (Palomar Transient Factory) (Shrinivas R. Kulkarni氏、California Institute of Technology)
4. Lattice QCD simulations applied to Nuclear Physics (Assumpta Parreño García氏、University of Barcelona)

(5) 上記の3科目に加えて、FGIP:Foreign Graduate Students Invitation Program を行った。

外国の博士課程の大学院生を招聘して、日本人大大学院生との共同研究を支援した。

招聘は合計3名で、トルコから2名、フランスから1名、である。

当プログラムは平成21年11月に学内評価を受け、高い評価(評価A)を得たため、平成22~24年度に大学による支援が継続している。

ホームページを update した。